

音楽で知る「ヒロシマ」

～音楽アウトリーチで体感する平和のメッセージ

これまでの平和学習では・・・

語り部による被爆体験のお話をきくこと、資料館の見学や碑めぐり体験、映画や絵画の鑑賞、被爆絵本や文学作品を読むこと...

子どもたちは、ヒロシマの経験を知ることを通して戦争の悲惨さを知り、平和や命の大切さについて考える、様々な機会が持たれて来ました。

音楽で知る、「ヒロシマ」



ヒロシマの体験を題材にした音楽作品は
1000作品以上。現在も作られ続けています。

「アオギリの歌」のように、これからを担う子どもたちによって生み出され、広く親しまれている作品もあります。
しかし、多くの曲があまり演奏機会がないまま眠ったままとなっています。
作品には「ヒロシマ」を通じた作者の平和への強い想いが込められており、音となって語られる時を待っています。

アウトリーチとは「相手に手を伸ばすこと」
音楽アウトリーチでは、子どもたちに「聴くだけ」ではなく
「音楽に参加し、体感する時間」をもたらします。

「ヒロシマ」を題材とした音楽作品は、ただ演奏を聞くだけでは子どもたちにとって理解しにくい内容のものもあります。
音楽アウトリーチでは、演奏者が子どもたちの目線に合わせ、詩や音が表現している音楽の背景を子どもたちといっしょに考えます。
作品にこめられた想いを理解した上で楽曲を聴きます。
子どもたちと一緒に演奏することも出来ます。
子どもたちは音楽作品を通して「ヒロシマ」の経験を知り、平和や命の大切さを体感する時間を持つことが出来ます。

音楽アウトリーチとは

子どもたちが
音楽に心をひらきやすくするために

子どもたちの「理解する力」は 日々成長しています

子どもたちは年齢によって興味や関心が変化して行きます。
音楽アウトリーチは、対象の子どもたちの年齢や環境に合わせた、
特別なオーダーメイドのプログラムです。
子どもたちがプログラムに集中しやすい環境づくりを目指すため、
音楽アウトリーチでは、次のような条件を整えることが推奨されています



1回、1クラス

子どもたち一人一人とコミュニケーションをとり、いっしょに考え、対話することを基本としていますので、1回のプログラムの参加人数は1クラス(30人位まで)が理想です。

45～50分プログラム

子どもたちが集中して取り組める時間の長さを考え、プログラムは、学校の時間割の1時限の長さを目安にしています。

場所は音楽室

対象者の人数は1クラスが基本ですので、体育館のような広すぎる空間ではなく、子どもたちが集中しやすい広さの音楽室が理想です。

1日2回まで可能

1人でも多くの子どもたちに聴かせてあげたい…先生方の願いに少しでも近づくため、1日に午前と午後の1回ずつ、計2回のプログラム実施が可能です。数日間実施すれば、より多くの子どもたちが参加できます。



音楽アウトリーチ プログラム実演例

言葉や音に込められた想いを考える

詩を朗読をするだけでなく、作品の背景を知ることを通して、詩や曲に込められた作者の想いについて考え、子どもたち自身に意見を出してもらう対話の時間を設けます。音楽アウトリーチは「聴くだけの時間」ではなく、子どもたち自身が考え、お互いの意見を聴き、参加する時間です。



作品に込められた想いをみんなで考えた上で演奏

子どもたちと詩や音楽について考えた後に、曲の演奏を行います。作品を知ることを通して、子どもたちは「ヒロシマ」の経験を知り、平和と命の尊さについて考える時間を持った後に曲を聴くことで、音楽の表現する世界をより深く味わうことが出来るようになります。作品の中には、子どもたちと一緒に演奏できる曲もあるので、ご要望に応じてプロの演奏家と共演の体験を行うことも可能です。



音楽アウトリーチの本道は、クラシック音楽の楽しさを知ること



音楽アウトリーチで最も大切なことは、質の高い演奏を子どもたちに届け、クラシックの楽しみ方を体験してもらうこと。

「ヒロシマ」を題材とする曲の他にも、本格的なオペラ曲をはじめとして、さまざまな曲と仕掛けで子どもたちの好奇心を刺激します。

音楽アウトリーチ 申込み、実施について

依頼の方法

まず、「ヒロシマと音楽」委員会(hirongaku@hirongaku.com)にお問合せ下さい。

音楽アウトリーチ公演は、文化庁「文化芸術による子どもの育成事業」による助成を申し込むことが出来ます。(年度ごとの公募、募集期間は11月～1月頃)

詳細は文化庁HP (<http://www.kodomogoeijutsu.com/>)をご参照下さい。

助成を用いない直接依頼もお受けしています。

経費について

- ・演奏家(ソリスト、伴奏者)の出演料
- ・交通費実費 (必要に応じて宿泊費)

文化庁助成事業の場合、上記経費の学校の負担はありません。

(演奏者への直接依頼の場合の出演料の目安は、文化庁助成事業と同程度をお考えください。)

実施までの流れ

1. 「ヒロシマと音楽」委員会(hirongaku@hirongaku.com)へ依頼申込み
文化庁助成事業に申請されるか、演奏者への直接依頼かを相談させていただきます。
学校のご希望日程と、演奏者のスケジュールを相談の上、アウトリーチの実施時期を決めます。
⇒助成事業に申込みをしない場合は、3へ
2. 文化庁助成事業公募申込み(11月~1月)
大まかなアウトリーチの実施内容を相談の上、公募申込み資料を作成、申請します。
手続きの際の詳細は、ご相談下さい。
助成が認められた場合、アウトリーチ実施は、申込みの次年度となります。
(全国公募の為、必ず助成が受けられるとは限りません。)
3. アウトリーチ実施前 事前打合せ
演奏家が学校にお伺いし、学校の様子や先生方のご要望をお聞きし、内容を検討します。
会場の下見も行います。希望曲等のご要望がある場合はご遠慮なくご相談下さい。
4. 演奏者によるプログラム決定
事前打ち合わせを基に、演奏者がプログラムの進行内容を決定します。
プログラムの内容によって、実施前に事前準備をお願いする場合があります。
学校行事等の予定に無理のない範囲で、ご協力下さい。
5. アウトリーチ実施
プログラム実施後に子どもたちへのアンケートをお願いしています。
6. 文化庁助成事業の場合は、期日までに書式に従った報告書の提出

以上が実施までの概要です。詳細、ご不明な点につきましては、依頼時にご相談下さい。

乗松恵美(ソプラノ)

広島市出身。東京藝術大学音楽学部声楽科ソプラノ専攻卒業。同大学大学院独唱科修了。京都市立芸術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了、博士論文「ヒロシマを題材とする声楽作品によるアウトリーチ活動」博士(音楽)号取得。

マダム・バタフライ国際コンクールin長崎優勝。ひろしまフェニックス賞、広島文化賞新人賞受賞。広島市市政120周年記念式典に於いて、ソプラノ独唱。2009年テグ市(韓国)国際オペラフェスティバルに招待歌手として参加。

(財)地域創造公共ホール音楽活性化事業、平成22,23年登録アーティスト。現在、同事業の支援事業アーティストとして継続登録、多くのアウトリーチ実践の経験を積むと共に、クラシックのレクチャーコンサート形式のソロリサイタルを

開催し、毎回好評を得ている。声楽を、木原朋子、瀬山詠子、朝倉蒼生、ウーヴェ・ハイルマン、折江忠道の各氏に師事。



モーツァルト「レクイエム」「戴冠ミサ」、ヘンデル「メサイア」、ハイドン「ネルソンミサ」、メンデルスゾーン「ラウダシオン」、ベートーベン「第九」「八長調ミサ」他、合唱曲のソリスト、オペラでは、ヴェルディ「椿姫」ヴィオレッタ、「仮面舞踏会」アメリカ、プッチーニ「蝶々夫人」蝶々さん、「ラ・ボエーム」ミミ、「修道女アンジェリカ」アンジェリカ、モーツァルト「フィガロの結婚」伯爵夫人、「魔笛」パミーナ、侍女I、「ドン・ジョヴァンニ」ドンナ・エルヴィーラ、ドニゼッティ「愛の妙薬」アディーナ、ビゼー「カルメン」カルメン、ミカエラ、レオンカヴァッロ「パリアッチ」ネッタ、J.シュトラウス「こうもり」ロザリンデ、プーランク「カルメル会修道女の対話」メール・マリー、芥川也寸志「ヒロシマのオルフェ」若い娘のちに看護婦、ジオルダーノ「メーゼマリアーノ」シスター・パツィエンツァ、など、多数の作品に出演。キングレコード「越天楽のすべて('02年レコード大賞受賞)」でソプラノソロを務めCDデビュー。2013年、ファーストソロアルバム「consolo〜コンソーロ」をリリース。

現在、故郷の広島を拠点に、各地で演奏活動を行う。日本演奏連盟、日本音楽学会、「ヒロシマと音楽」委員会会員。ミリオンコンサート協会所属。NHK文化センター講師、エリザベト音楽大学非常勤講師。